

<第 4 回高速鉄道ネットワークのあり方検討委員会>

～第 3 回検討委員会の議事概要等～



NIIGATA
PREFECTURE

新潟県交通政策局

第3回検討委員会の議事概要（冒頭のみ公開）

■日時：令和5年6月23日（金）15時00分～16時40分

■会場：興和ビル 10階 大会議室

■出席者：委員10名／14名

※波瀾委員、藤澤委員、長谷川委員、吉田委員（オブザーバー）は欠席

■内容：以下のとおり

1 議事項目（資料に基づき、事務局（新潟県交通政策局）から説明）

（1）第2回検討委員会の議事概要等

- ・ 高速化手法の詳細確認（（案1）信越本線「ミニ新幹線化」の配線略図による高速化手法の詳細、工事のステップ案、（案2）信越本線「既存線改良による高速化」の配線略図による高速化手法の詳細等）
- ・ 今後の調査方針等について（需要予測の算定方法、次年度の調査内容）

（2）高速化手法の調査結果

- ・ 令和4年度の（案1）及び（案2）の調査結果の振り返り
 - ・ 他の高速化手法として、（案3）北越急行ミニ新幹線化・長岡⇄柏崎シャトル化、（案4）トキ鉄ひすいラインミニ新幹線化の概略ルートを提示
- ※ 委員から既存線の活用を含めて幅広に検討した方がよいとの提案があったことを受けて対応

⇒ 案3及び案4を含めて幅広に検討することで了承

（3）今後の調査方針等について

- ・ 今後調査・検討し、報告させていただく事項、今後の検討委員会及び調査・検討等のスケジュールについて説明

第3回検討委員会の議事概要（委員からの主な意見要旨）

- 将来のために空間を空けておく、あるいは既存部分の活用を念頭に入れて（他の高速化手法を）検討することは合理性がある。
- 国土強靱化や地域活性化を含めて、広い目で見えて評価する必要がある。
- 国土強靱化の議論において、どういうエリアの、どういう方々に便益がいくのかを考慮する必要がある。
- 在来線を活用して高速化を図ることで、貨物輸送や在来線輸送を痛めることがあるので、将来の地域の姿を総合的に考えながら検討しなければいけない。
- 既存のインフラを活用して整備を抑える視点も大事だが、効果が一番出るにはどうしたらいいかなど、少し広い範囲で議論してもいい。
- 地域住民に、こういうことやると、どういうメリットがあるのかという議論が必要。
- 交通というものはあくまで都市の装置の一つであり、まちづくりにおいてありたい姿や実現したいことを掲げた上で、それに対して求める機能をお聞きしながら検討していくことが大切。
- 交通の利便性という点で考えると、今ある信越本線の利活用を議論するべき。